

ガス加熱炉内鑄棒温度測定

- ワイドレンジで各種鋼材の加熱温度に対応可能
- 加熱・圧延の製造工程を可視化

各種鋼材の加熱処理時に「炉内物体の温度分布がわかれば助かる」といったご要望がございます。導入頂いたお客様では、省エネ・環境対策にも一役買っているとのこと評価を頂いております。
短波長での測定のため、窓越しの測定が可能です。

■ 導入効果

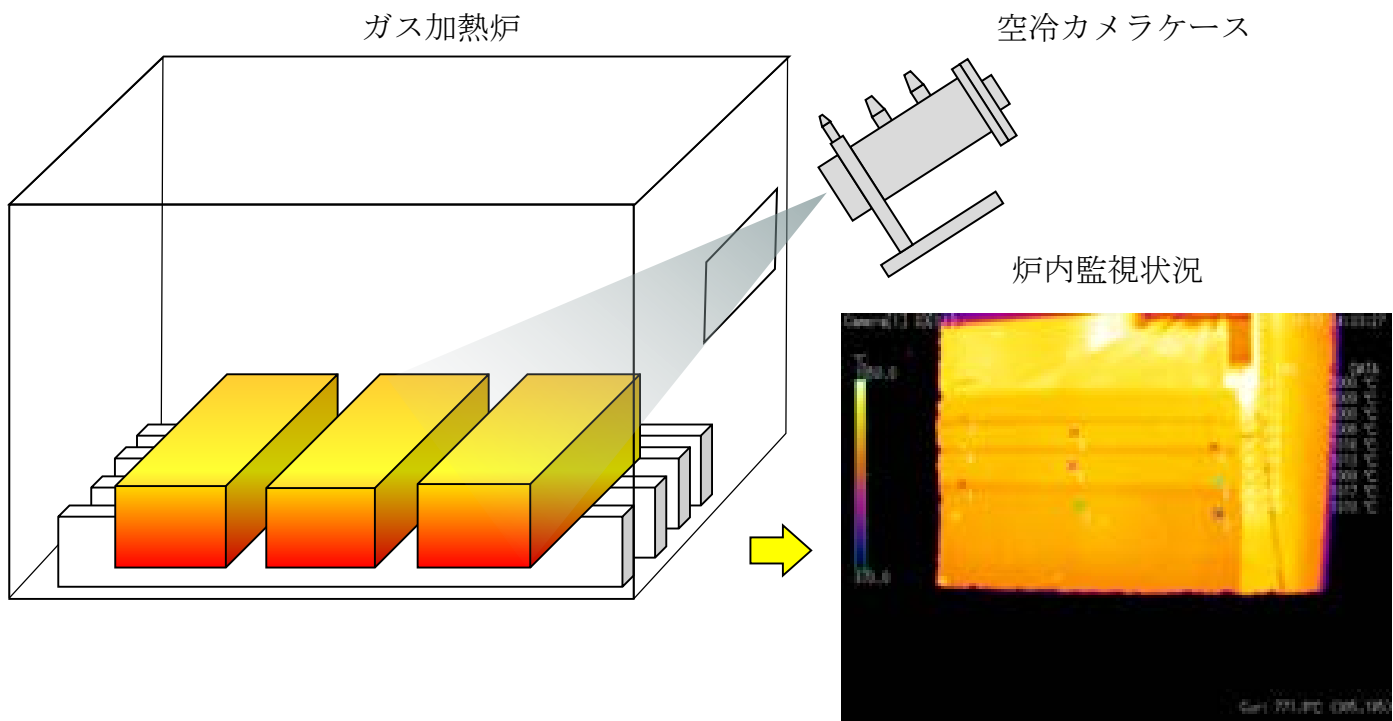
- 炉内の加熱状態と温度分布を窓越しに監視可能
- 窓越しの測定が可能のため、エアパージ等のユーティリティで炉内雰囲気乱さない
- 測定温度レンジが700℃～2500℃とワイドなため多品種の鋼材加熱温度に対応

■ 商品の特長

- 炉の窓材を透過する短波長（0.8～1.0 μm ）Si-CCDカメラを搭載
- 視野角42° のレンズで炉内の奥から手前に流れてくる鋼材の温度分布を計測可能
- 輻射熱対策を向上させた新形空冷ケースを導入

■ アプリケーション例

熱画像カメラ : CPA-RS40A
レンズ視野角度 : 42°（水平）×31°（垂直）
測定温範囲 : 700～1200℃ ※コントローラでレンジ切換え



CHINO